

2020年11月 イーアイデム会員対象 アンケート結果

TOPICS

自信のない社会人基礎力

1位「創造力」、2位「働きかけ力」、3位「ストレスコントロール力」

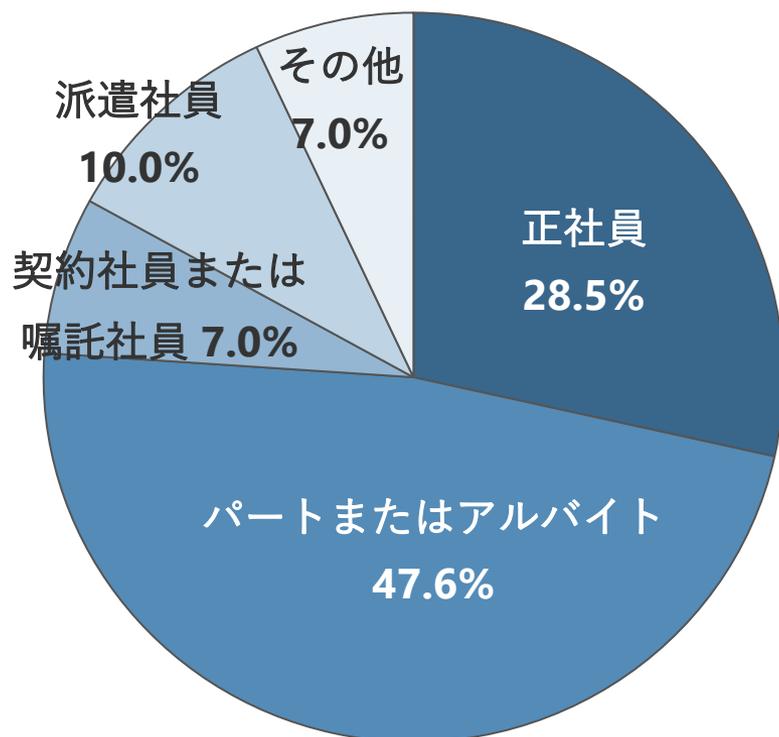
株式会社アイデム

東日本事業本部 データリサーチチーム

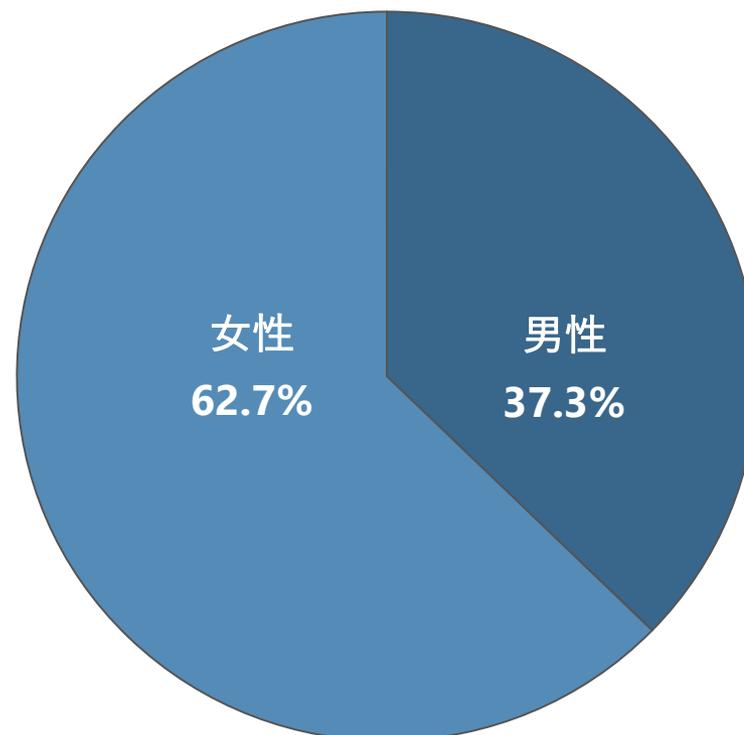
- 調査名
 - ▶ 【イーアイデム会員限定】 お仕事探しに関するアンケート
- 調査目的
 - ▶ 現在の求職者の状況を把握し、今後のサービス向上・商品開発につなげる
- 調査対象
 - ▶ 総合求人サイト「イーアイデム」の会員で、2020/11/01～11/30の期間にイーアイデムから何らかの求人に応募した人
- 調査期間
 - ▶ 2020/11/02～2020/12/06(35日間)
- 調査方法
 - ▶ インターネットリサーチ
(株式会社マクロミル「クエスタント」を使用)
- 有効回答数
 - ▶ 330件

※調査結果は四捨五入のために合計が100%にならない場合があります

希望する雇用形態



性別



イーアイデムから求人に応募した人に、今回仕事探しをしている理由に「新型コロナウイルス感染症の影響」は関連しているかきいた。

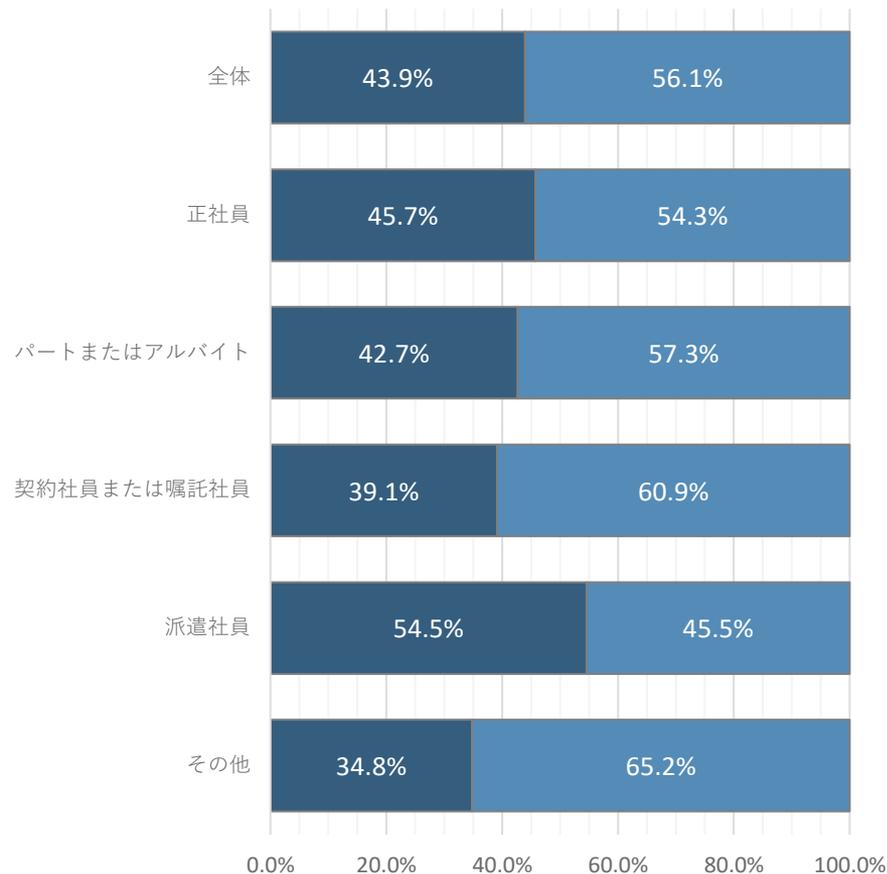
全体で43.9%が「はい」と回答し、約4割の回答者が新型コロナウイルス感染症の影響を受けて仕事探しをしていたことがわかった。4月調査時と比較すると、61.8%から17.9pt減少している。

希望雇用形態別に影響の有無をみると、「派遣社員」では54.5%が「はい」と回答し、全体の数値より高くなった。

「パートまたはアルバイト」「契約社員または嘱託社員」希望の人は約6割が「いいえ」と回答し、感染症の影響を受けて活動をしている人が少なかった。

今回仕事探しをしている理由には、新型コロナウイルス感染症の影響は関連していますか。

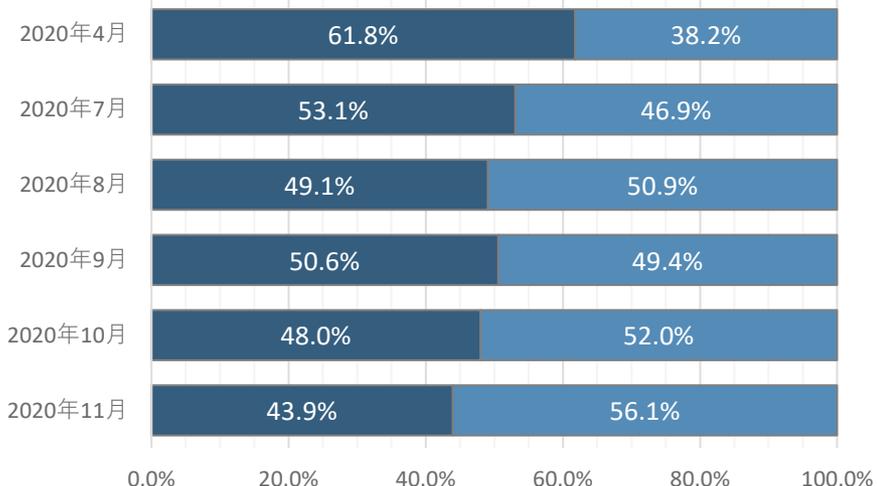
■はい ■いいえ



参考

新型コロナウイルス感染症の影響割合の変化

■はい ■いいえ

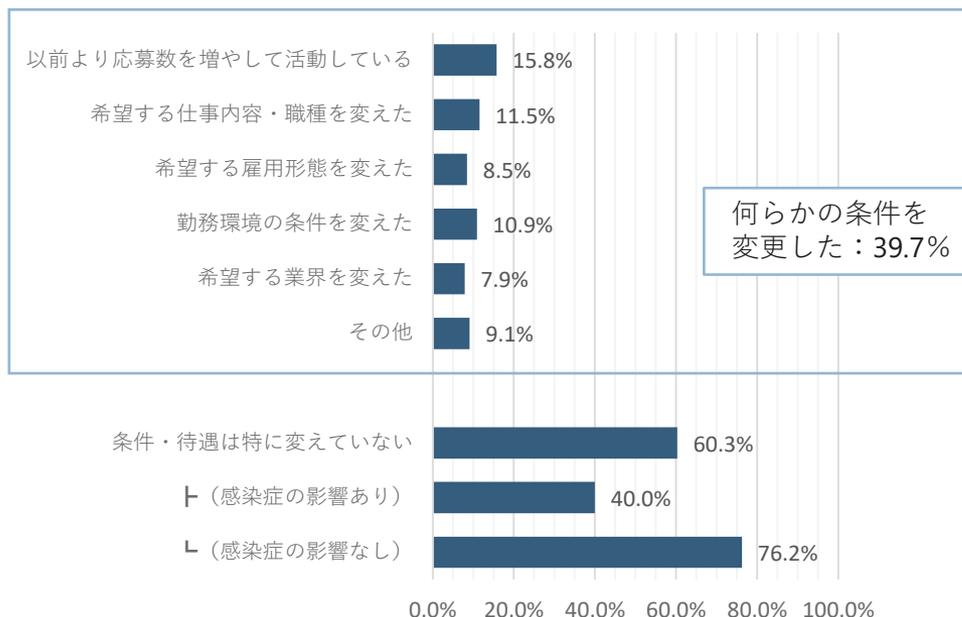


イーアイデムから求人に応募した人に、新型コロナウイルス感染症拡大の前後で仕事を選ぶ際の条件等は変わったかきいた。全体では「何らかの条件を変更した」39.7%、「条件・待遇は特に変えていない」60.3%となり、コロナ禍において仕事探しの軸を変えない人が6割となった。

「何らかの条件を変更した」人の状況を見ると、最も多かったのは「以前より応募数を増やして活動している」で15.8%、次いで「希望する仕事内容・職種を変えた」が11.5%となった。公共交通機関を利用した通勤に感染症へのリスクを感じ、回避したい意向を示す自由意見が多く集まった。

「条件・待遇は特に変えていない」について、今回仕事探しをしている理由に新型コロナウイルス感染症の影響がある人となない人を比較した（P4参照）。「感染症影響あり（『はい』と回答/以下同）」の人は、「条件・待遇は特に変えていない」割合が40.0%で、「感染症影響なし（『いいえ』と回答/以下同）」（76.2%）より36.2pt以上低くなっており、何らかの条件を変更した割合が大きい。

新型コロナウイルスの感染拡大により、仕事探しの際に注
目する条件や待遇は変わりましたか？（複数回答）



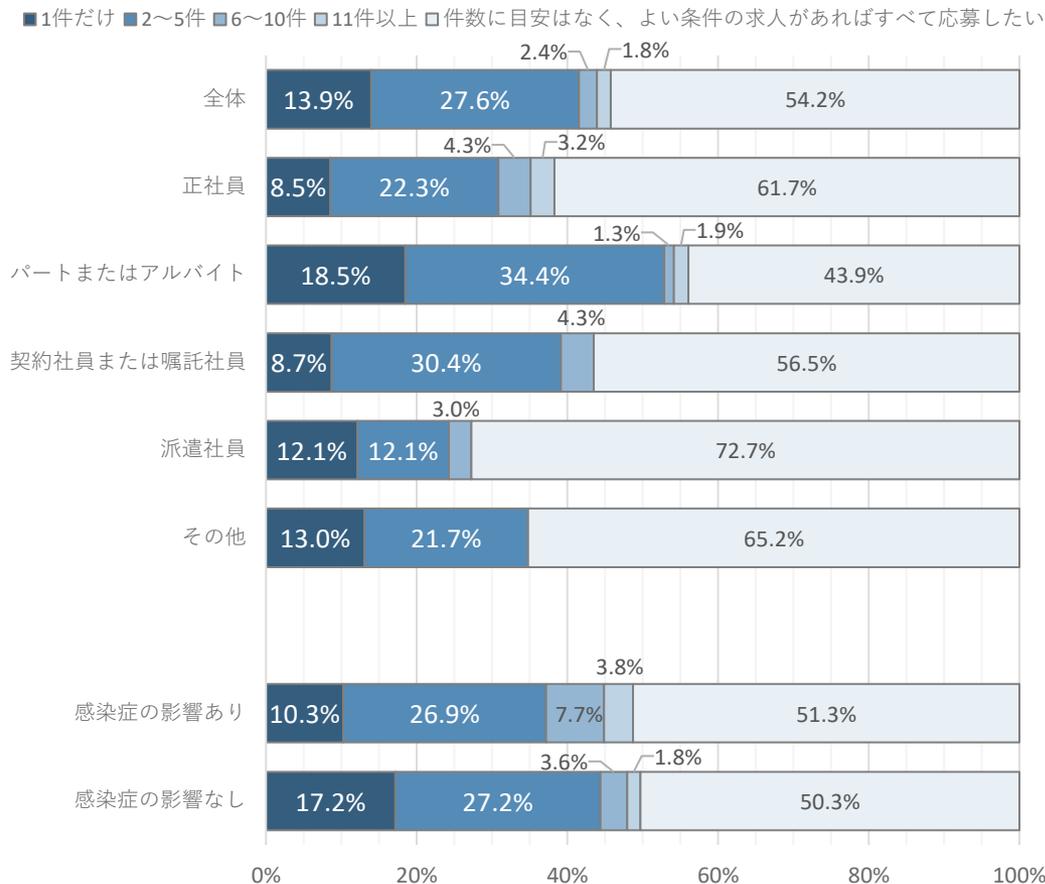
希望雇用形態	性別	年齢層	自由意見
正社員	男性	20代	適切な訓練を受ければ、どこでもすべての仕事ができると思います。
正社員	女性	40代	出来るだけ自宅から近く、公共交通機関の利用を少なくした。派遣から正社員に変え、生活を安定させるため、希望給与を上げた。
パートまたはアルバイト	女性	50代	電車通勤はリスクが高そうなので、徒歩で通える、これから開店する新人教育のある業界にした。
契約社員または嘱託社員	女性	60代	キャリアだけで評価して頂ける所を探しています。
その他：条件さえ合えば	女性	50代	得意分野だけでは中々難しい。方向性を変えてチャレンジするしかない。
パートまたはアルバイト	男性	60代	週4日、午前中の限られた時間の勤務を選んで応募してみました。

イーアイデムから求人に応募した人に、今回の求職活動期間の中で、求人に応募する件数の目安があるかどうかきいた。全体では、「よい条件の求人があればすべて応募したい」が最も多く54.2%、次いで「2～5件」が27.6%、「1件だけ」が13.9%、「6～10件」が2.4%、「11件以上」が1.8%となった。「1件だけ」以外を選んだ割合は約8割となり、多くの人が複数応募を前提に活動しているといえる。

希望雇用形態別にみると、「パートまたはアルバイト」では1件だけの応募にとどまると回答が5人に1人となった。

仕事探しにおける新型コロナウイルス感染症の影響の有無（P4参照）との関連をみると、「感染症影響あり」と回答した人は「感染症影響なし」と回答した人よりも6件以上の応募を検討する割合が多かった。一方で、応募件数に目安を設けずに活動している割合は同程度、50%ほどとなった。例年よりも求人件数が少なくなっていることもあり、感染症の影響の有無にかかわらず、自分に合った求人が出ている良い機会を逃さないように活動しているようだ。

今回の求職活動期間の中で、
およそ何件ほど応募しようと思いますか。

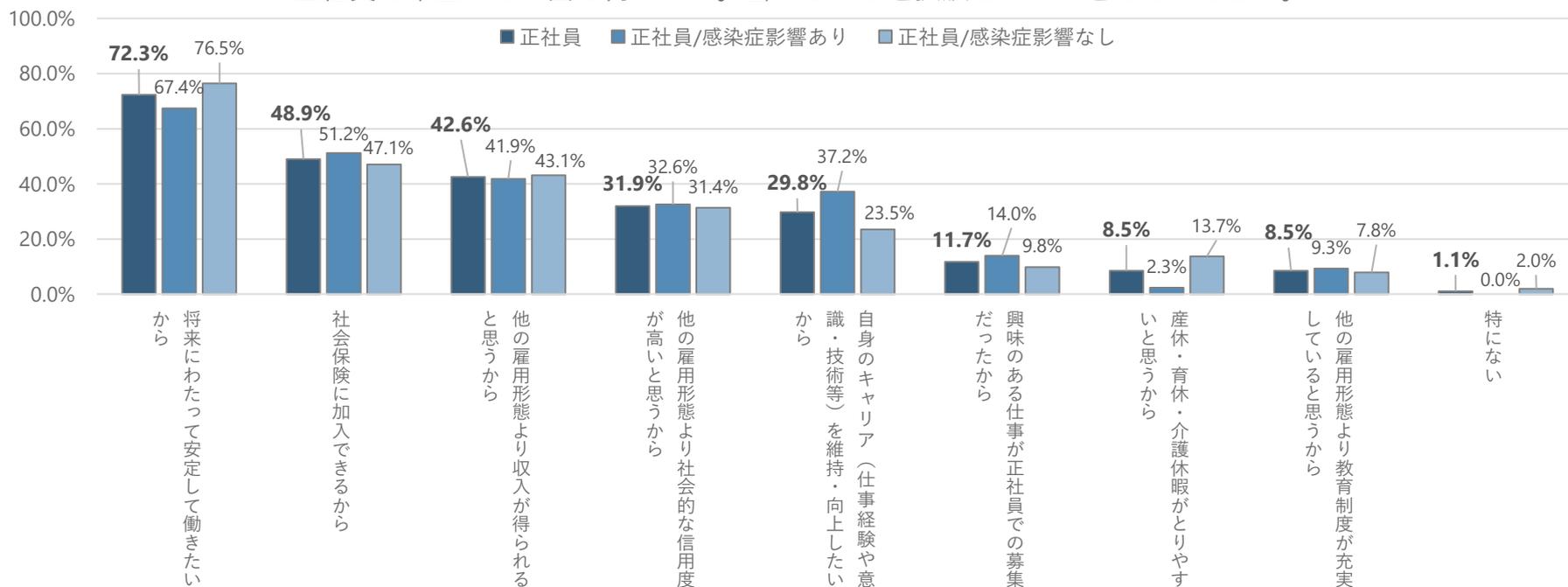


イーアイデムから求人に応募した、正社員雇用を希望する人に、なぜ正社員を希望するのかを聞いた（複数回答）。最も多かったのは「将来にわたって安定して働きたいから」で72.3%、次いで「社会保険に加入できるから」が48.9%、「他の雇用形態より収入が得られると思うから」が42.6%となっている。

仕事探しにおける新型コロナウイルスの影響の有無（P4参照）との関連をみると、「感染症影響あり」の人は「自身のキャリア（仕事経験や意識・技術等）を維持・向上したいから」を選んだ割合が、「感染症影響なし」の人より13.7pt高かった。自身の仕事の陳腐化・業界縮小への危機感を払拭したり、技術向上・経験を多く積むことができると考えている割合が多いようだ。

「感染症影響なし」の人は「感染症影響あり」の人より「将来にわたって安定して働きたいから」を選んだ割合が9.1pt、「産休・育休・介護休暇がとりやすいと思うから」を選んだ割合が11.4pt高かった。ひとつの企業に長期にわたって勤めることを前提に仕事選びを進めている傾向がみられた。

正社員を希望する理由は何ですか。当てはまる選択肢をすべて選んでください。



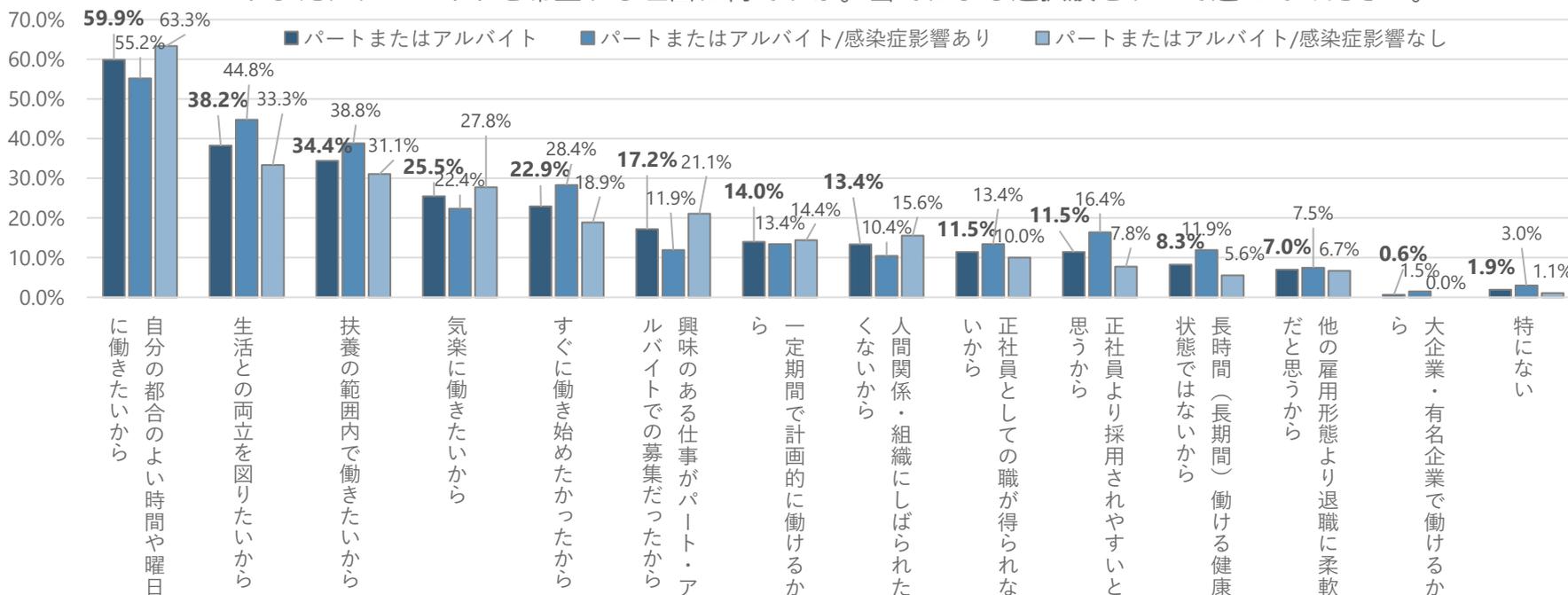
パート・アルバイトを希望する理由

イーアイデムから求人に応募した、パートまたはアルバイトを希望する人に、なぜその雇用形態を希望するのかを聞いた（複数回答）。最も多かったのは「自分の都合の良い時間や曜日に働きたいから」で59.9%、次いで「生活との両立を図りたいから」が38.2%、「扶養の範囲内で働きたいから」が34.4%となった。全体では、今の日常生活に合わせた働き方を望んでいる、無理のない範囲で働くことを望んでいる人々が、パートまたはアルバイトという雇用形態を選んでいる傾向がある。

仕事探しにおける新型コロナウイルスの影響の有無（P4参照）について、「感染症影響あり」の人は「感染症影響なし」の人よりも「生活との両立を図りたいから」「すぐに働き始めたかったから」「正社員より採用されやすいと思うから」が8pt以上高くなっている。急ぎ仕事に就くことを目指した探し方が目立った。

「感染症影響なし」の人は「感染症影響あり」の人よりも「興味のある仕事がパート・アルバイトでの募集だったから」「自分の都合の良い時間や曜日に働きたいから」が8pt以上高かった。今の生活の延長で働きやすい仕事を探している傾向がより表れた結果となった。

パートまたはアルバイトを希望する理由は何ですか。当てはまる選択肢をすべて選んでください。



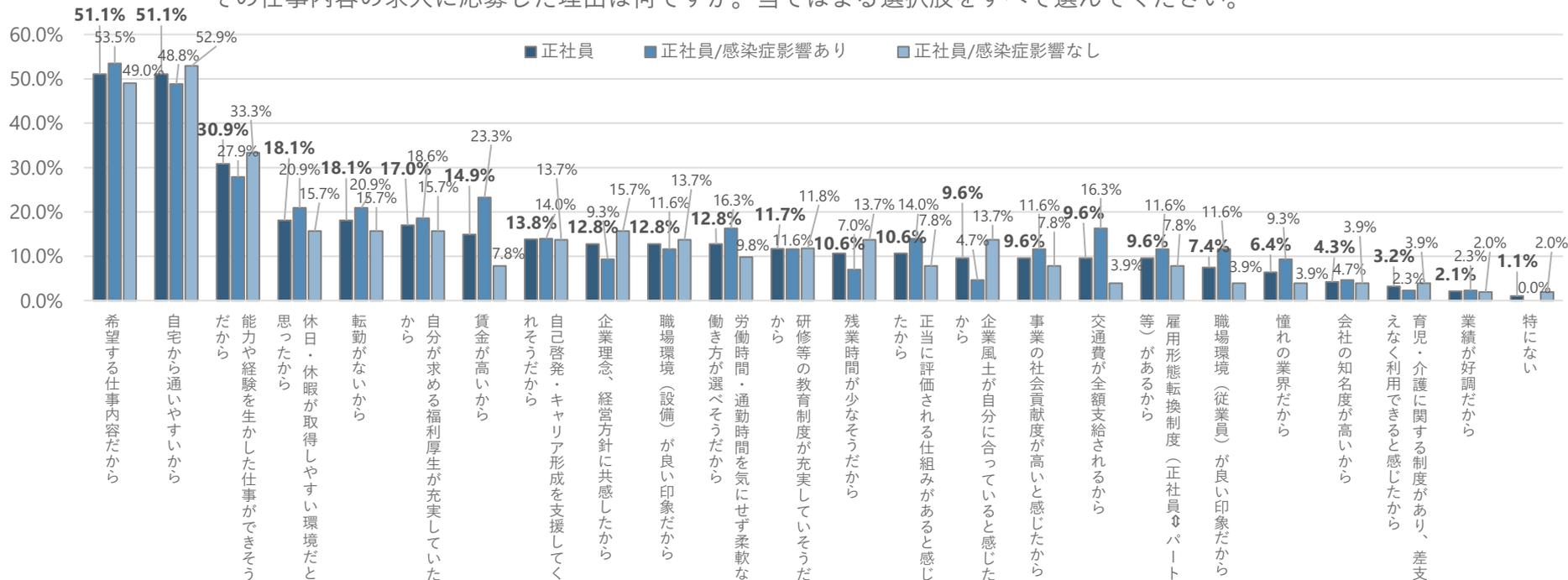
求人に応募した理由（正社員希望の場合）

イーアイデムから求人に応募した、正社員雇用を希望する人に、自身が応募した求人を選んだ理由をきいた（複数回答）。最も多かったのは「希望する仕事内容だから」と「自宅から通いやすいから」が同率で51.1%、「能力や経験を生かした仕事ができそうだから」が30.9%となった。

仕事探しにおける新型コロナウイルスの影響の有無（P4参照）との関係を見ると、「感染症影響あり」の人は「感染症影響なし」の人よりも「賃金が高いから」が15.5pt、「交通費が全額支給されるから」が12.4pt高かった。働いて得られる金額に、より注意を向けている傾向がみられる。新型コロナウイルス感染症の影響から、失業していたり、勤め先から得られる賃金が減少した人が、安定した収入を求めているとも考えられる。

「感染症影響なし」の人では、「感染症影響あり」の人よりも「企業風土が自分に合っていると感じたから」が9.0pt、「残業時間が少なそうだから」が6.7pt、「企業理念、経営方針に共感したから」が6.4pt高かった。企業の体質・姿勢から良いと思える会社を選んでいる傾向がより表れていて、腰を据えられる会社を見定めているとも考えられる。

その仕事内容の求人に応募した理由は何ですか。当てはまる選択肢をすべて選んでください。



求人に応募した理由（パート・アルバイト希望の場合）

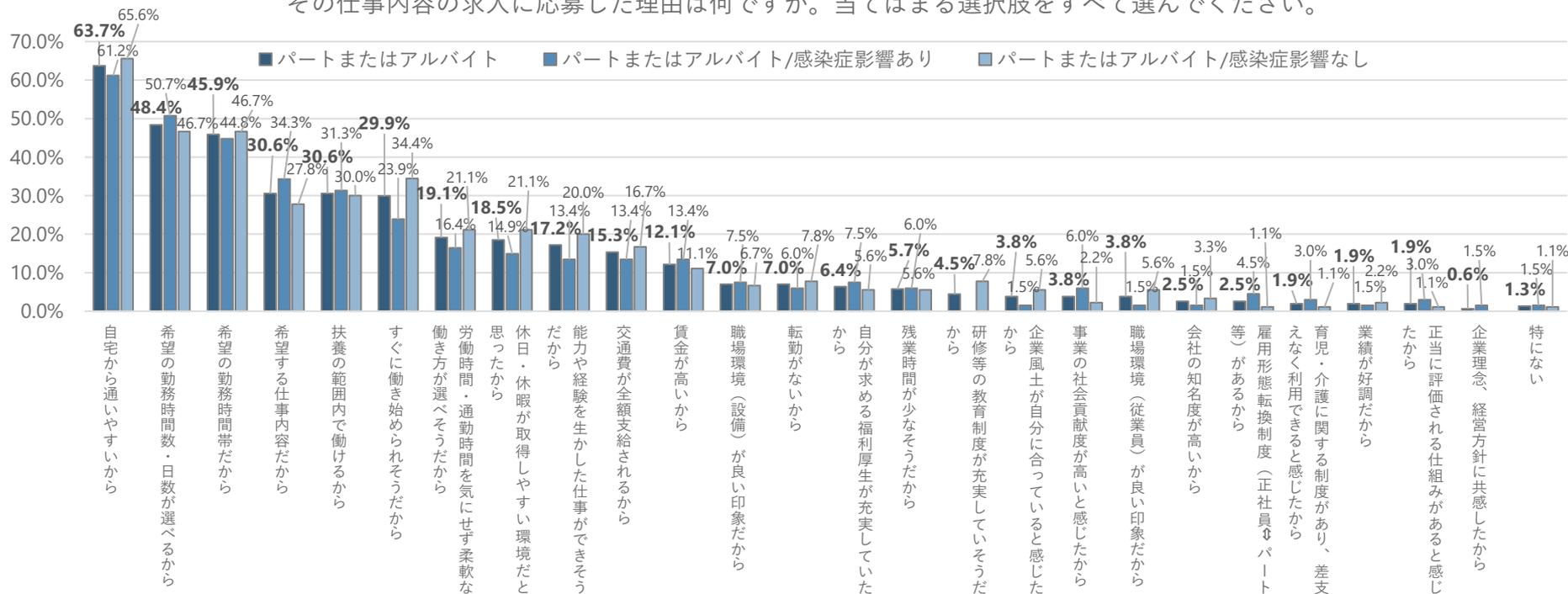
イーアイデムから求人に応募した、パートまたはアルバイト雇用を希望する人に、自身が応募した求人を選んだ理由をきいた（複数回答）。最も多かったのは「自宅から通いやすいから」で63.7%、次いで「希望の勤務時間数・日数が選べるから」が48.4%、「希望の勤務時間帯だから」が45.9%となった。

仕事探しにおける新型コロナウイルスの影響の有無（P4参照）について、「感染症影響あり」の人は「感染症影響なし」の人よりも「希望する仕事内容だから」が6.5pt 高かった。より仕事内容を重視して活動している傾向がある。

「感染症影響なし」の人は、「感染症影響あり」の人よりも「すぐに働き始められそうだから」が10.5pt、「研修等の教育制度が充実していそうだから」が7.8pt高かった。前者に関しては、年末にかけて短期の求人が増えてきていることが影響していると思われる。「感染症影響あり」の人で割合が低くなっているのは、いつもとは違う場所や人と関わる就業に感染症リスクを感じているのかもしれない。

「希望の勤務時間帯だから」「扶養の範囲内で働けるから」では、感染症の影響の有無で大きな差は現れなかった。

その仕事内容の求人に応募した理由は何ですか。当てはまる選択肢をすべて選んでください。



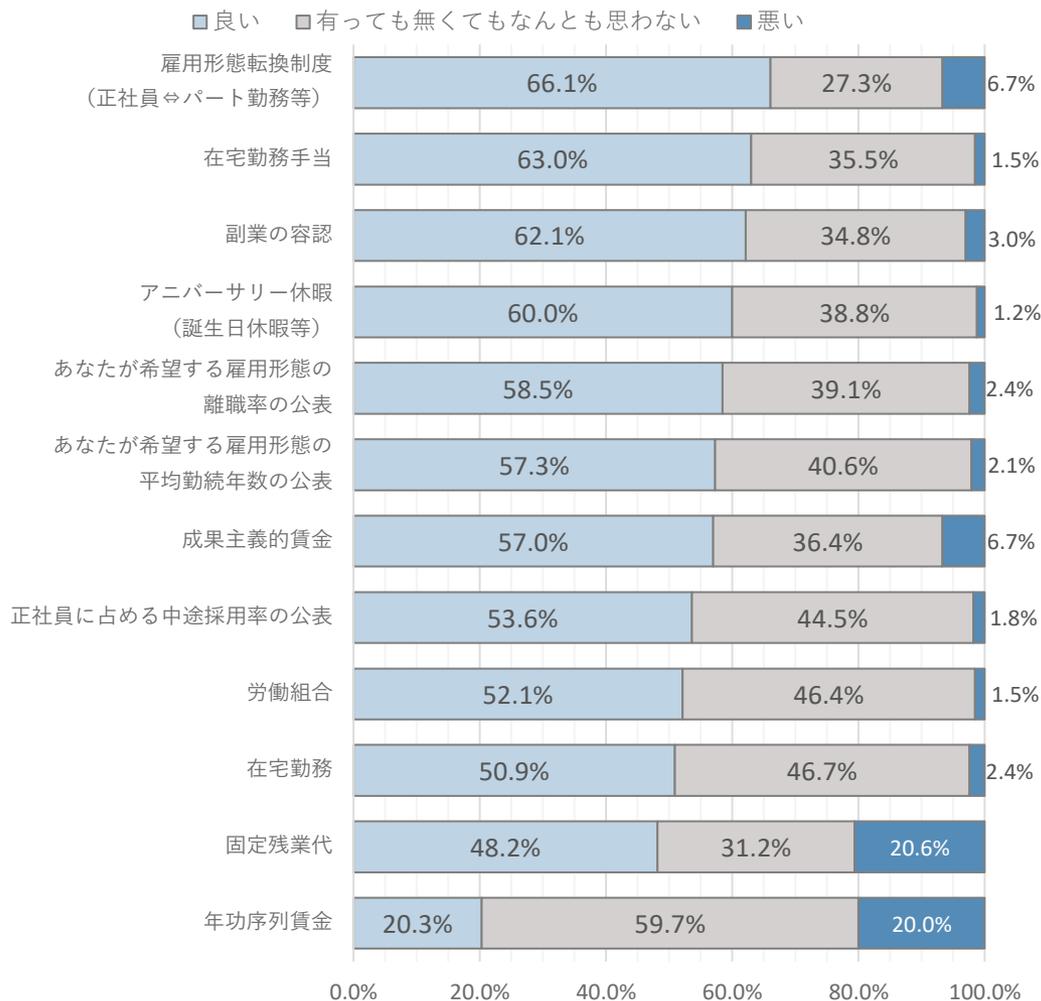
イーアイデムから求人に応募した人に、企業の制度の印象についてきいた。企業の制度は、「在宅勤務」「在宅勤務手当」「雇用形態転換制度（正社員⇔パート勤務等）」「年功序列賃金」「成果主義的賃金」「副業の容認」「アニバーサリー休暇（誕生日休暇等）」「労働組合」「固定残業代」「正社員に占める中途採用率の公表」「あなたが希望する雇用形態の離職率の公表」「あなたが希望する雇用形態の平均勤続年数の公表」の12種。

印象が「良い」割合が最も高かったのは「雇用形態転換制度」で66.1%、次いで「在宅勤務手当」の63.0%、「副業の容認」の62.1%と続いた。半数以上が「良い」と回答した制度は、「固定残業代」「年功序列賃金」を除く10種だった。

印象が「悪い」割合が高かったのは「固定残業代」で20.6%、次いで「年功序列賃金」で20.0%となった。特に「年功序列賃金」は「良い」の割合と「悪い」の割合が同程度だった。また、「雇用形態転換制度」の印象を「悪い」とした割合は6.7%で、他の「良い」割合が高かった選択肢よりも「悪い」印象を持っている人の割合が高い。

「在宅勤務手当」と「在宅勤務」には、「良い」割合に約1割の差がある。これは「手当が出る」ことに対する好印象の表れと読み取れる。

次の制度がある企業の印象を教えてください。



経済産業省では、職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力を、社会人基礎力として定義している。3つの能力、12の能力要素からなる。イーアイデムから求人に応募した人に、自分の社会人基礎力をどう評価するかを聞いた。

「かなり自信がある」割合が最も高かったのは、「規律性（社会のルールや人との約束を守る力）」の51.8%、次いで「傾聴力（相手の意見を丁寧に聴く力）」の33.6%となった。「かなり自信がある」と「まあまあ自信がある」を合わせた場合、95.1%の人が規律性に自信を持っていた。

「まったく自信がない」割合が最も高かったのは、「ストレスコントロール力（ストレスの発生源に対応する力）」の6.7%、次いで「働きかけ力（他人に働きかけ巻き込む力）」の3.9%となった。「あまり自信がない」割合が最も高かったのは「創造力（新しい価値を生み出す力）」の40.6%だった。「あまり自信がない」「まったく自信がない」の合計では「創造力」の割合が最も高く44.2%だった。

※社会人基礎力12の能力要素

主体性：物事に進んで取り組む力

働きかけ力：他人に働きかけ巻き込む力

実行力：目的を設定し確実に行動する力

課題発見力：現状を分析し目的や課題を明らかにする力

計画力：課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力

創造力：新しい価値を生み出す力

発信力：自分の意見をわかりやすく伝える力

傾聴力：相手の意見を丁寧に聞く力

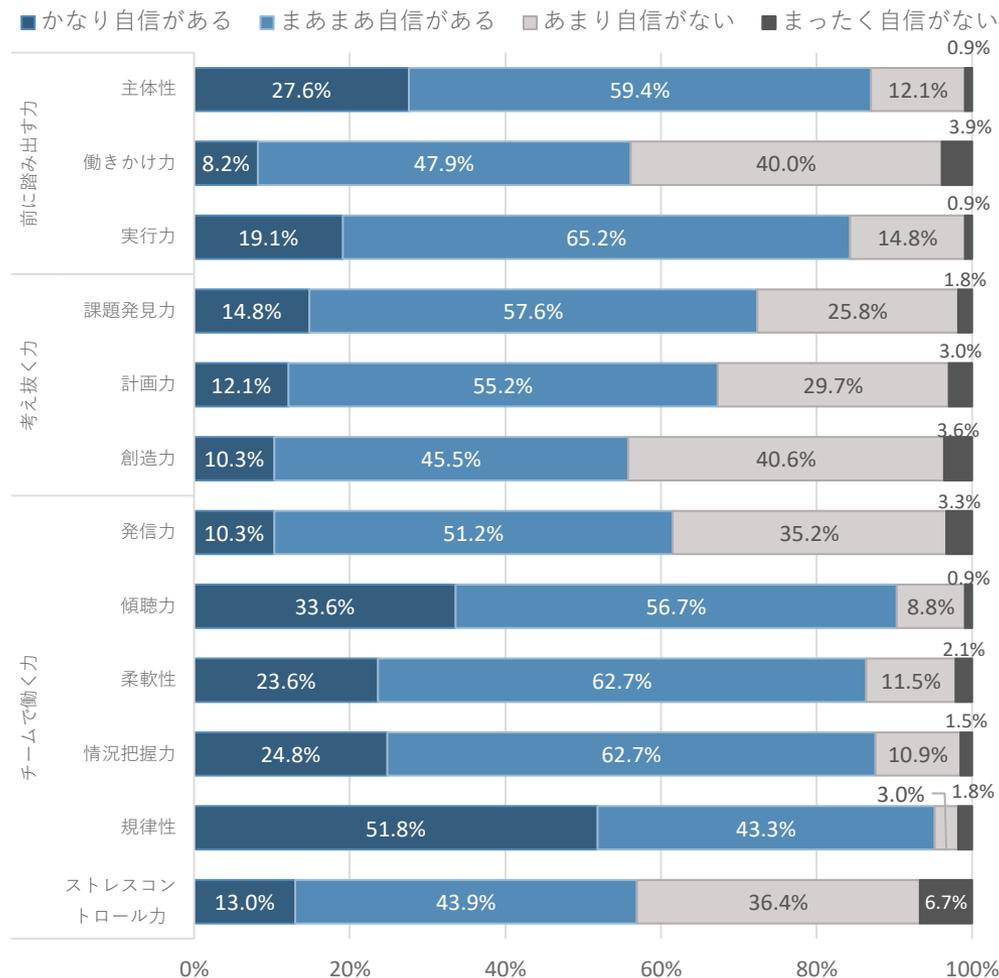
柔軟性：意見の違いや立場の違いを理解する力

状況把握力：自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力

規律性：社会のルールや人との約束を守る力

ストレスコントロール力：ストレスの発生源に対応する力

あなたは、ご自身の以下の能力について、どのように評価していますか。



社会人基礎力の自己評価（年代別・希望雇用形態別）

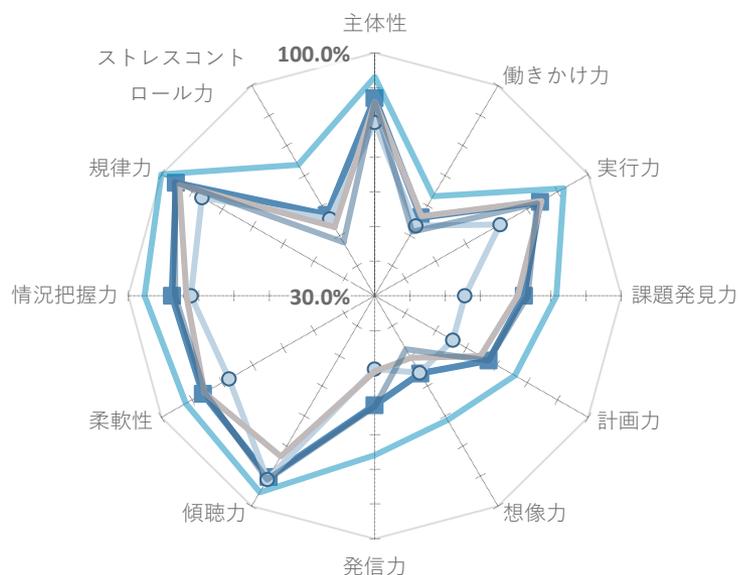
社会人基礎力の自己評価について、「かなり自信がある」と「まあまあ自信がある」の合計を、年代別または希望雇用形態別に比較した。

年代別にみると、全体の傾向として30代以下は他年代よりも自信がある割合が少なく、60代以上はその逆となっている。30代以下の場合、これまでの仕事を通じた経験時間自体が他年代よりも少ないことから、能力を備えていたとしても自負するほどではないと考えている場合がある。60代以上では、これまでの仕事の中で各能力を活かして働いてきたという経験が、自己評価につながっていると考えられる。

希望雇用形態別にみると、「正社員」の自信がある割合が比較的高い。「働きかけ力」と「課題発見力」では、「正社員」と「パートまたはアルバイト」で差がみられる。業務の進行上、最終責任は正社員の担当だったり、チームのメンバーを鼓舞したり全体を俯瞰する機会が多いことから、これら能力を日常的に求められている立場の求職者が多いと考えられる。一方で、「実行力」と「規律力」では大きな差はみられなかった。

自信あり 計

■ 合計 ○ 30代以下 ■ 40代 ■ 50代 ■ 60代以上



自信あり 計

■ 合計 ○ 正社員
 ● パートまたはアルバイト ■ 契約社員または嘱託社員
 ■ 派遣社員 ■ その他（特にこだわらない等）

